

第3学年国語科指導案

日 時 平成26年11月7日(金) 公開授業I

対 象 3年3組 男13名 女17名 計30名

指導者 西 前 敏 子

1 単元名 せつめいのしかたを考えよう

「すがたをかえる大豆」「食べ物のひみつを教えます」

2 単元の目標

第3学年及び第4学年目標

目的に応じ、内容の中心をとらえたり段落相互の関係を考えたりしながら読む能力を身に付けさせるとともに、幅広く読書しようとする態度を育てる。

相手や目的に応じ、調べたことなどが伝わるように、段落相互の関係などに注意して文章を書く能力を身に付けさせるとともに、工夫をしながら書こうとする態度を育てる。

- (1) 身近な食べ物のすがたのかえ方に興味をもち、進んで読んだりまとめたりしようとする。
- (2) 構成や段落相互の关系到注意しながら、文章を書くことができる。
- (3) 中心となる語や文をとらえて、段落相互の関係を考え、文章の内容を読むことができる。
内容を大きくまとめたり、必要などころは細かい点に注意したりしながら読むことができる。
- (4) 接続語を適切に使って文を書くことができる。

3 単元の評価基準

観点	B：おおむね満足できる
国語への 関心・意欲・態度	食べ物のすがたのかえ方について興味をもち、読み物や図鑑などをもとに、進んで読んだりまとめたりしようとする。
書く能力	身近な食べ物について調べたことを、「対象物の提示－説明－まとめ」の構成で説明的文章を書いている。(イ)
読む能力	大豆がすがたをかえることについて、中心になる語や文に着目し、段落と段落のつながりを考えながら、文章を正しく読んでいる。(イ) 「対象物の提示－説明－まとめ」の構成に注意し、「中(説明)」に書かれた具体例を整理しながら読んでいる。(エ)
言語についての 知識・理解・能力	文や段落相互の関係を示す手掛かりとしての接続語の役割を理解し、用いている。(イ(ク))

4 単元について

(1) 児童について

児童はこれまでに、「イルカのねむり方」「ありの行列」の学習で、文章全体の構成や段落につ

いて学習し、それぞれの段落の内容を読み取ってきた。その結果、段落構成を意識しながら読むことはできるようになってきたが、指示語に注意したり段落相互の関係を考えたりしながら読む力は十分とはいえない。また、書く活動については、「気になる記号」の学習で、段落に気を付けながら調べた記号について書くことを学んできた。しかし、取り出した情報を段落構成に気を付けてまとめる力は十分とはいえない。

このことから、「食べ物のひみつブック」を書くという活動を通して、必要な情報を取り出し、それを段落関係に気を付けてまとめる力を児童に身に付けていきたい。

(2) 教材について

「すがたをかえる大豆」では、身の回りにあふれている大豆やその加工品について書かれており、児童にとって身近な内容になっている。しかし、大豆の加工食品は、見ただけでは大豆からできているとは思われないものが多く、児童にとっては新しいことを知り得ながら、楽しく読みすすめられる内容になっている。「大豆をおいしく食べるくふう」が一段落一事項で書かれ、各段落の一文目が説明の中心となる文になっている。また、五つの事例が接続語を使って、簡単なものから複雑なものへと順に並んでいるなど、段落相互の関係についても理解を深めることができる教材である。

これを受けて、「食べ物のひみつを教えます」では、興味をもった「食べ物」を選び、自分が調べたい事柄について情報収集し、教材文を参考にしながら、分かりやすく文章にまとめる学習活動を展開する。段落の役割を意識し、それぞれに必要な情報を集め、接続語を適切に使って書くことができる。このような教材で、自分が選んだ「食べ物」についての必要な情報を取り出し、「はじめ・中・終わり」の文章構成で説明的文章にまとめる活動を取り入れれば、児童は、文章を正しく読み、必要な情報を取り出し、それを段落構成に気を付けてまとめる力を高めていくことができるであろうと考える。

(3) 指導について

本単元では、説明文を読み取る力、調べたことを文章にまとめる力を身に付けさせるために、自分が選んだ食べ物について、読んで調べたことを説明する「食べ物のひみつブック」を作り紹介し合うという言語活動を設定する。

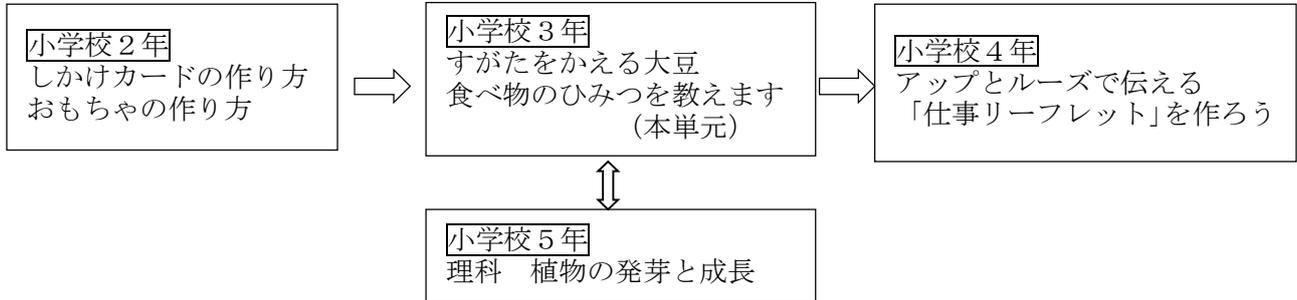
加工食品について調べ「食べ物ひみつブック」を書き、友だちに知らせるという目的意識をもたせ、学習の進め方を確認していく。大事なことを分かりやすく伝えるためにはどのように教材文を読み、書くことに生かしていくのか課題意識をもたせ、文章構成や各段落での書き方について意識させながら学習を進めていきたい。

まず、文章全体の構成を捉える。そして、「中」に書かれている食品の順番や理由を考えながら、教材の写真と並べる活動を通して、児童に段落相互の関係を考えさせ、教材文において事例の示し方や接続語の使い方など、表現の工夫を視点とした読み取りを行っていく。さらに、互いに読みや考えをかわらせ合うために、グループで考えを交流し合う場を設定し、自分の考えを整理したり自分の考えを再構築したりすることができるようにする。

書く活動については、まず、「すがたをかえる大豆」で学んだ表現の工夫を生かして、興味をもった「食べ物」について文章にまとめる活動を行う。そして、自分が取り上げた「食べ物」の事例を分かりやすく説明するためには、どんな順序で書いたらよいか意識させ、接続語を適切に使

って書いていく。さらに、「対象物の提示」「説明」「まとめ」という文章構成や段落相互を関係付ける接続語を意識させながら、本単元のねらいへ迫っていく。

5 単元の系統と他教科との関連



6 単元の指導計画（15時間扱い）

- | | |
|----------------------------------|----------|
| (1) 単元のねらいを知り、学習計画を立てる。 | 1時間 |
| (2) 図鑑や事典の使い方を学ぶ。 | 1時間 |
| (3) 文章全体の構成とそれぞれの部分のおおまかな内容を考える。 | 1時間 |
| (4) 「食べ物」の説明の順序や理由を自分なりに考える。 | 1時間 (本時) |
| (5) 大豆をおいしく食べる工夫と食品について読み取る。 | 1時間 |
| (6) 「中」の段落の説明の仕方の工夫を見付ける。 | 1時間 |
| (7) 説明文の分かりやすい書き方を知る。 | 1時間 |
| (8) 「食べ物ひみつブック」を作るために調べたい題材を選ぶ。 | 1時間 |
| (9) 選んだ題材について調べ、構成メモを作成する。 | 2時間 |
| (10) 「はじめ」と「終わり」の文章を書く。 | 1時間 |
| (11) 「中」の文章を書く。 | 1時間 |
| (12) 書いた文章を推敲する。 | 1時間 |
| (13) 絵と照応させながら文章を清書する。 | 1時間 |
| (14) 発表会をする。 | 1時間 |

7 本時について

(1) 目標

「中」に書かれている「食べ物」の順序や理由を考えることを通して、段落相互の関係をとらえることができる。

<読む能力>

(2) 「自分の考えをもつ^目」「互いの考えを交流する^交」「互いの考えのよさに気づく^気」場面

「自分の考えをもつ」場面は、教材の写真の並び方の順序や理由を自分なりに考える場面である。「互いの考えを交流する」場面は、自分の考えと友だちの考えを比べる中で、自分の考えを再構築する場面である。「互いの考えのよさに気づく」場面は、グループや全体で交流することを通して、自分の考えを広げたり確かめたりしながら、段落相互の関係を考える場面である。

(3) 展開

段階	学習活動	場面	○指導上の留意点 ●評価の観点(方法)
導入 10分	1 前時の学習を想起する。 2 本時の学習課題を把握する。 「中」に書かれた食べ物のじゅん番やその理由を考えよう。		○どんな食べ物があったか確認しながら写真を提示する。 ○並び方には筆者の意図と工夫があることを知らせる。 ○段落と段落の関係に気を付けて

	3 課題解決への見通しをもつ。		並べることを押さえる。
展開 30分	4 学習課題を解決する。 (1) 一人でカードを並べながら考える。 (2) グループで自分の考えと友達の考えを比べながら、考えを深める。 (3) 全体で学び合う。	目交気	<ul style="list-style-type: none"> ○並べた理由を説明できるように考えながら活動させる。 ○グループ学習の仕方を確認する。 ○お互いの考えの共通点や相違点を聞きながら、交流させる。 ○迷っていたり、交流が止まったりした時には、教材文を読ませ、考える手立てを与える。 ○手を加える回数が少ない順番や大豆の形に近い順番などから並べていることを説明した児童がいた時は、取り上げて全体で確認する。 ○児童の考えを認め、事例の並べ方には、意図があることを知らせる。 ●食べ物の順番や理由を考えることを通して、段落相互の関係をとらえている。 (観察・発言)
終末 5分	5 本時の学習を振り返る。		○本時の学習の振り返りをし、次時の学習を確認する。

(4) 板書計画

